

入会のご案内

性同一性障害／性別違和の当事者、ご家族、ご友人、ご同僚などの周囲の関係者、教員・医療・福祉等の対人援助職に従事する支援者、メディア等で当事者のあり方や生き方に関心をお持ちになった方など、身体の性別と性自認の食い違いから生じる悩みや生きづらさに苦しむ人々の充実した社会生活と共生社会の実現にご賛同ご支援いただける方（個人・法人）の入会をお待ちしております。

入会すると、交流会開催情報などを受け取れます。

	入会金	年会費
正会員	なし	5千円
一般会員	なし	なし
賛助会員	3万円	1万円

入会方法 joinus@gids.or.jpに空メールを送ってください。すぐに入会受付メールが自動返信されますので、メール本文に記載されている入会受付URLにアクセスし、入会に必要ないくつかの項目を入力・送信してください。後ほど、事務局からメールで詳しいご案内などをお送りします。



ご寄付のお願い

性同一性障害／性別違和に悩む当事者を支え励ましていく活動の推進拡充のため、みなさまからの温かい励ましとご支援をお待ちしております。

当法人は非営利を徹底した一般社団法人として運営されています。みなさまからいただいたご寄付はすべて、日本各地の当事者のために使われます。

現金（少額の場合のみ交流会会場などで受付）、ゆうちょ銀行の通常払込み（払込取扱票にて）や口座振替、銀行振込、などの方法をご用意しています。公式ホームページより詳しいご案内をご確認ください。

私たちは、身体的性別と性自認とが不一致状態であることに悩む人々のために活動している支援団体で、当事者性を持つ者が理事などの役職を務めることで運営されています。性同一性障害／性別違和に悩む当事者たちがひとりで差別や偏見に苦しむことがないように、よりよい社会生活を送っていただけるように、当事者同士やその家族・支援者が集い語り合える交流会の開催（当事者支援活動）、講演などを通じた理解促進啓発活動、私たちが社会で生きていくために必要な合理的配慮を求める提言要望活動、当事者の声を集積したり分析したりする調査研究活動などを行っています。

本部事務所地は東京都。日本各地に支部があり、当事者が仲間存在を感じられる居場所となるような交流会をそれぞれの地域で開いています。

自らの性自認を大切にしながらよりよく日常生活を送っていただけるような共生社会の実現を願い、目指しています。

本部事務局と各支部（ ）は主な活動拠点

本部事務局（お問い合わせ先）

e-mail jimukyoku@gids.or.jp

電話 050-5236-1304※

〒191-0031 東京都日野市高幡
1004番地の3 ラ・ヴィ・エゼー303



※本法人は専従の事務員を設けていないため、いただいたお電話にすぐに対応できないことがあります。あわせてメールでも概要をお問い合わせいただけますと比較的早く折り返しなどできます。



一般社団法人 gids.jp 日本性同一性障害と共に生きる人々の会

身体的性別と性自認の不一致に悩む当事者とその理解者による非営利型法人

公式ホームページ
<https://gids.or.jp>



性同一性障害とは

自らの身体的性別と性自認が食い違っているという「性別違和感」を抱き、その重大な精神的苦痛のために生きることそれ自体や日常社会生活に重大な支障が生じている状態、またその状態にある人を指します。

性同一性障害当事者はたいてい、どうやれば自分も生きていけるだろうかと思いついた末、何らかの性別移行に踏み出していきます。このとき、男になりたい、女になりたい、のような希望や要望ではなく、自らの身体的性別の特徴に対する強い拒否感や忌避感が先にあるのが一般的です。たとえば、「もうこれ以上(身体的性別のままでは)生きていけない」「死んでこの肉体から解放されたい」のような訴えがあります。

自分の体はどう見ても
男性/女性でしかないと
わかっているのに…

こうした自己矛盾や苦悩を
ひとりで抱え込みがちです



「いつか、女性/男性
になれるんじゃないか」

「第二次性徴から解放されたい」

「このままじゃ生きていけない…」

LGBTの「T」ということ？

主に人権運動のなかで用いられるLGBTの「T」は、トランスジェンダー(Transgender)の頭文字です。性自認が出生時に割当てられた性別と対応しない状態にある人々を広く指し示すという意味では、性同一性障害の当事者も「T」の一部に含まれると言えます。

しかし私たちは、あえて性同一性障害という言葉を使っています。性別を自ら自由に選択したいのではなく、笑顔で生きていけるようになるために性別移行を必要とするのだと理解しているからです。私たちは、性別違和感のような生死に関わる苦しみも、性別を移行していくなかで味わう苦しみも、自ら積極的に選択してはしません。

生きていくために必要な医療や福祉、社会環境などが整えられていくことによって、社会の中のひとりとしてごくごく自然に生きていけることを願い、求めています。

私たちが展開している主な活動

当事者支援活動

仲間をつなぐ、地域交流会事業

地域交流会は、主に性同一性障害の当事者同士が悩みを語り合ったり情報交換をしたりできる集いの場です。当事者の家族や支援者なども参加できます。開催頻度は各支部2~3ヶ月に1回。スポーツなどのレクリエーションやバーベキューを通じた交流会もあります。

家族を支える、家族合同グループ事業

性同一性障害当事者を家族に持つ方々のためのグループです。カミングアウトされた戸惑いや苦悩なども責められる心配なく話せるようにしています。当人には訊きにくいことを質問したり、家庭ではうまく話し合えないことを率直にぶつけあったりしていただけます。

経験を伝え合う、情報ポータル事業

よりよく健康に幸せにつながる性別移行を進めてもらえるように、参考資料として、医療情報や性別移行の体験談、当事者ならではの生活の知恵などを集積し、ウェブサイト上で公開しています。

理解促進啓発活動

支援者に伝える、研修講師派遣事業

性同一性障害当事者への支援や必要な配慮を主題とする研修会に、対人援助関連資格を持つ当事者を講師として安価に派遣します。当事者であり支援者であることを活かし、より適切で現場に役立てられる研修機会を提供できるように心がけています。

理解を広める、啓発媒体作成事業

性同一性障害に関する知識や情報をわかりやすく解説したり紹介したりするリーフレットや学術論文等を作成し、教育・医療・行政機関等に配布しています。支援者のみならず、ひとり悩む当事者の手にも届けられるように、配布場所・方法を模索しながら進めています。

調査研究活動

生の声をあげる、当事者研究事業

あるひとりの当事者の経験や考えではなく、多くの当事者が必要としていることや求めていることを知るためのアンケート調査等を実施しています。収集したデータは学術的に認められている方法に則って分析し、当事者の声を集積した意味ある知見として公知を図っています。

希望を託す、調査協力支援事業

性同一性障害当事者にとって有意義な提案や社会変革を助けると期待され、適切な倫理的配慮がなされると判断された調査や研究に協力しています。たとえば、協力者募集の情報発信、調査協力対象になり得る当事者との連絡仲介などです。

提言要望活動

生きづらさを減らす、性別欄再考事業

必要性を検討することなく設けられている性別欄は多くの性同一性障害当事者に生きづらさをもたらしています。不要な性別欄には削除、必要な性別欄には可能な範囲内での合理的配慮を求める提言や要望活動を行っています。また、その支援も行っています。

共生を目指す、請願陳述要望事業

性同一性障害当事者がよりよく日常社会生活を送ってほしいよう、議会や政府に請願や陳述を提出しています。必要に応じ、国や地方公共団体が募集しているパブリックコメントに意見を送っています。



第32回フォーラム in 東京
「性同一性障害のこれまでとこれから」



沖縄交流会ビーチパーティー